

放送グループ検討対象サービスの事業性



2007.3.22

メディアフロージャパン企画株式会社

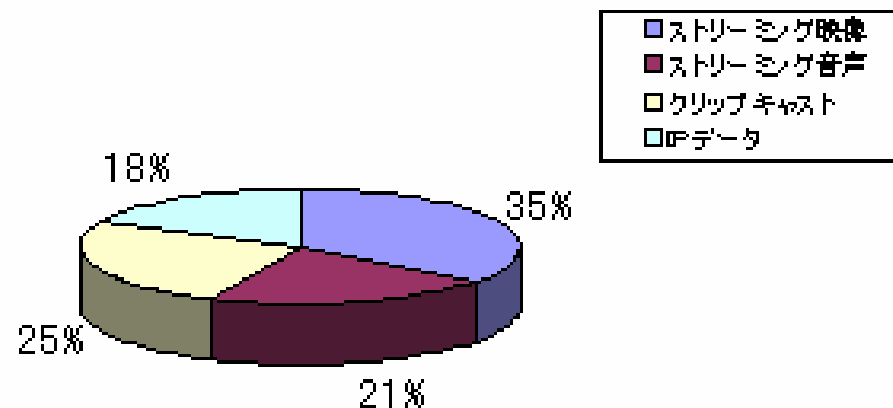
海外事例

■ Verizon Wireless (米国) の例

- ◆ 3月1日よりサービスを開始
- ◆ 提供チャンネル例とその方式
 - ◆ MTV、NBC =>サイマル放送
 - ◆ ESPN =>カレッジフットボール、バスケットボールのライブ中継、その他
 - ◆ Fox、CBS =>NCAAのライブ中継、その他
 - ◆ Fox =>"24"や"Prison Break"を通常放送時間帯とずらして放送
 - ◆ CBS =>ドラマを通常放送時間帯とずらして放送
 - ◆ その他チャンネルを提供中又は提供予定
- ◆ 料金
 - ◆ ベーシックパッケージ
 - ◆ 月額\$15 (チャンネル数4の限定パッケージは月額\$13)
 - ◆ 8チャンネルの視聴可能
 - ◆ セレクトパッケージ
 - ◆ 月額\$25
 - ◆ 8チャンネルの視聴可能
 - ◆ VCAST V Pak (単体では月額\$15) 含む

提供コンテンツの配信形態に関する調査結果

- 放送グループで検討を進めているコンテンツの提供形態については、現行のワンセグ・3セグ的なリアルタイムの映像・音声コンテンツ配信だけではなく、蓄積配信やデータ放送等々、様々なマルチメディアコンテンツの配信を想定している。
- メディアフロージャパン企画株式会社による調査結果をみると、必ずしも現行のワンセグ・3セグ的なリアルタイム配信だけではなく、さまざまな配信形態に対してユーザー受容性があることが判明している。
- このようなことから、現在の検討前提となっている $30\text{MHz} \pm 5\text{MHz}$ (ガードバンド含む) の範囲内の工夫により、ユーザーニーズへの適用を検討することは可能と想定している。



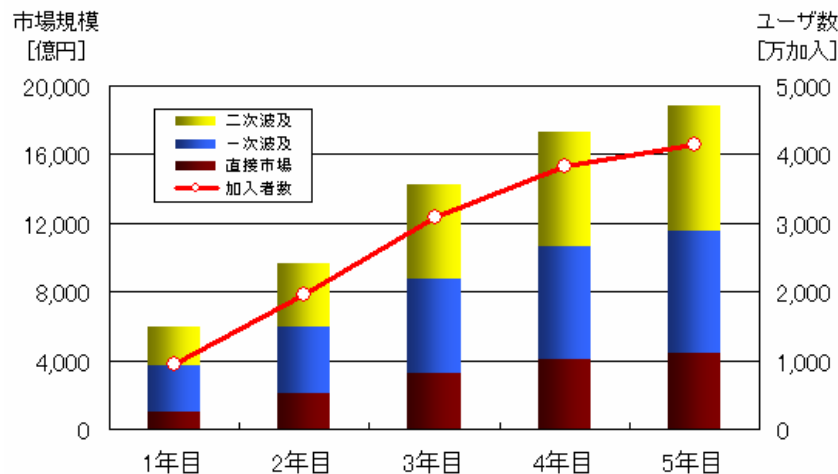
日本における市場調査結果

- 当社が行った市場調査結果（調査委託先：アクセンチュア）によると、被験者の自由選択による10チャンネルのパッケージの価格受容性は約900円程度、また、その場合の潜在的な市場規模は次のような結果となった。

- ◆ 調査方法

- ◆ 約50種類の提供イメージ想起可能なコンテンツを明示
- ◆ その上で、前ページ記載の4つの配信形式を自由に組み合わせた10チャンネルを選択
- ◆ この場合の価格受容性について調査

潜在市場規模
(ユーザ数、直接/一次/二次波及市場規模)



(アクセンチュア株式会社 試算による)

【前提条件】

- キャリアによる制限がなくメディアフローが提供されることとする
- 利用できる周波数帯域は十分確保でき、帯域幅による提供コンテンツへの制限はないこととする
- エリアの制限なくメディアフローサービスの提供を行うこととする
- コンテンツ調達において制約がないものとする（ユーザが望むコンテンツを調達できるものとする）